

国土数值情報（小学校区）

製品仕様書

第 3.1 版

令和 6 年 3 月

国土交通省不動産・建設経済局

目次

1 概覧.....	5
1.1 空間データ製品仕様書の作成情報.....	5
1.2 目的.....	5
1.3 適用範囲.....	5
1.4 引用規格.....	6
1.5 用語と定義.....	6
1.6 略語.....	7
1.7 参考資料.....	7
2 適用範囲.....	7
2.1 適用範囲識別.....	7
2.2 階層レベル.....	7
3 データ製品識別.....	8
4 データ内容および構造.....	9
4.1 応用スキーマクラス図および応用スキーマ文書.....	9
4.1.1 国土数値情報応用スキーマパッケージ.....	9
4.1.2 指定地域パッケージ.....	10
4.1.3 小学校区パッケージ.....	11
4.1.4 共通パッケージ.....	14
4.2 空間スキーマプロファイル.....	14
4.3 時間スキーマプロファイル.....	14
5 参照系.....	14
5.1 座標参照系.....	14
5.2 時間参照系.....	14
6 データ品質.....	15
6.1 品質要求及び評価手順.....	15
7 データ製品配布.....	18
7.1 配布書式情報.....	18
7.2 配布媒体情報.....	18
8 メタデータ.....	19
付属資料-1 符号化仕様作成のためのタグ一覧.....	1
付属資料-2 符号化仕様.....	2

【改定履歴】

版	更新日	改定内容
第 1.0 版	2010 年 3 月	地理情報標準プロファイル (JPGIS) ver.1.0 準拠
第 2.0 版	2012 年 3 月	地理情報標準プロファイル (JPGIS) のバージョンアップに伴う改訂 (符号化仕様は GML 準拠)
第 2.1 版	2017 年 3 月	・問合せ先を「国土情報提供サイト運営事務局」に変更
第 3.0 版	2022 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ JPGIS2014 に対応 ・ 座標参照系を「参照系識別子 : JGD2011 / (B,L)」に変更 ・ 属性項目の変更、「学校コード」の追加 ・ 公立小学校ポイントデータを削除
第 3.1 版	2024 年 3 月	作成情報、適用範囲の更新

1 概覧

1.1 空間データ製品仕様書の作成情報

本製品仕様書の作成に関する情報は、以下のとおりとする。

- 空間データ製品仕様書の題名：国土数値情報（小学校区）製品仕様書 第 3.1 版
- 日付：2024 年 3 月 14 日
- 作成者：国土交通省 不動産・建設経済局 情報活用推進課
- 言語：日本語
- 分野：行政地域
- 文書書式：PDF

1.2 目的

国土数値情報は、国土に関する基本的な地理空間情報であり、国土計画、土地・不動産施策、地域活性化施策等の検討等に幅広く活用されており、インターネットを通じ一般公開を行っている。小学校区については、地理的状況や地域社会がつくられる歴史的経緯といった地域の実態を踏まえて、市区町村教育委員会の判断に基づき設定されており、地域コミュニティを形成する基礎的単位としても捉えることができる。また、全国データを整備することにより、一覧性を確保し、国及び地方公共団体において、それぞれの地域における教育・安全・防災の状況把握や地域連携への活用が考えられるほか、行政区域データと併せて都市の再編及び都市構造等に関する解析にも活用できる。

本データは、全国の公立小学校の通学区域の範囲（面）について、設置主体、名称、所在地等のデータを整備し、令和 3 年度作成国土数値情報（学校）データより学校コードを付与したものである。

1.3 適用範囲

本製品仕様書が適用されるデータの適用範囲は以下のとおりである。

- 空間範囲
日本全国
- 時間範囲
2023 年 11 月時点

1.4 引用規格

本製品仕様書は以下の規格から引用する。

- 地理情報標準プロファイル（JPGIS） 2014 版 令和元年 7 月

1.5 用語と定義

本製品仕様書で使用される専門用語とその定義は、以下の資料に従う。

- 地理情報標準プロファイル（JPGIS） 2014 版「附属書 5（規定） 定義」

- 国土交通省 国土政策局国土情報課 GIS ホームページ ガイダンス

URL : <https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/gis/guidance/index.html>

- 小学校区

小学校区とは、当該小学校に通学する児童・生徒の居住地について、市区町村の教育委員会等が指定する小学校別の一定の通学範囲となる「通学区域」をいう。

また、全国各地においては「学校区」「学区」「校区」「校下」も同義語にあたる。

なお、通学区域が広範囲等により範囲が限定しにくい「私立小学校」「特別支援学校」「国立大学の附属小学校」等については、当該小学校区の対象に含まない。

- 公立小学校

公立小学校とは、主に地方公共団体（市区町村及びその組合）が設置する小学校のことをいう。

学校教育法において、小学校は、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すことを目的とし、市町村は、その区域内にある学齢児童を就学させるに必要な小学校を設置しなければならないと定めている。

- 公立義務教育学校

公立義務教育学校とは、小中一貫教育の形態の一つであり、一人の校長と一つの教職員組織が 9 年間の学校教育目標を決め、一貫した教育を行う新たな学校種である。

小中一貫教育の実施形態には「義務教育学校」のほか、設置者が同一の「併設型小学校・中学校」や、設置者が複数の「連携型小学校・中学校」もある。

1.6 略語

本製品仕様書で使用される略語は、以下のとおりとする。

- JPGIS Japan Profile for Geographic Information Standards
- JMP Japan Metadata Profile
- UML Unified Modeling Language

1.7 参考資料

国土数値情報で使用されるコードリスト等については、以下のサイトを参照。

国土数値情報ダウンロードサービス

URL <https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>

2 適用範囲

本製品仕様書の適用範囲は、次のとおりとする。

2.1 適用範囲識別

国土数値情報（小学校区）製品仕様書 第 3.1 版 適用範囲

2.2 階層レベル

データ集合

3 データ製品識別

本製品仕様書に基づくデータ製品の識別は、次のとおりとする。

- 空間データ製品の名称：国土数値情報（小学校区）データ
- 日付：2024年3月14日
- 問合せ先：国土交通省 国土情報提供サイト運営事務局
URL: <https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/inquiry.html>
- 地理記述：全国

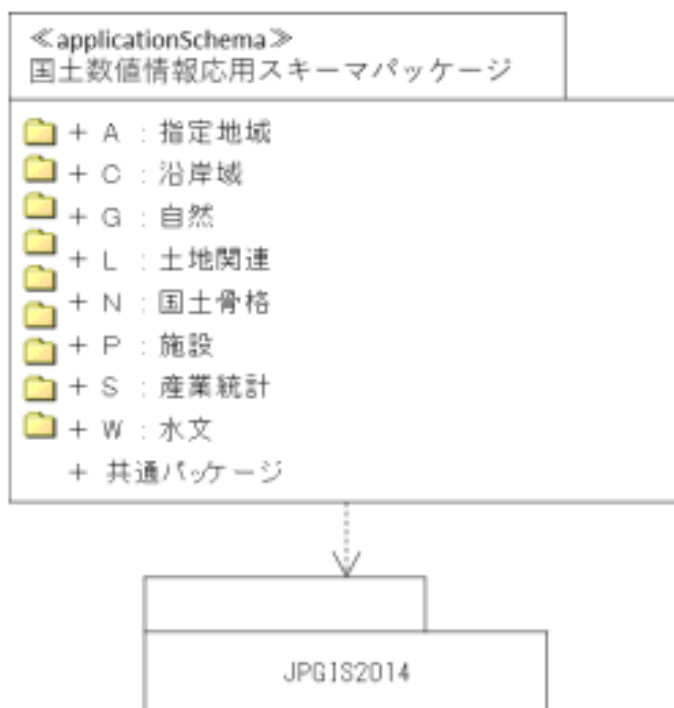
4 データ内容および構造

本章では、本製品仕様書が扱う国土数値情報に関する UML クラス図および定義文書を記す。

4.1 応用スキーマクラス図および応用スキーマ文書

4.1.1 国土数値情報応用スキーマパッケージ

このパッケージは、国土数値情報応用スキーマを構成する各パッケージの依存関係を示したものである。国土数値情報応用スキーマは、国土数値情報を分類したパッケージと、国土数値情報応用スキーマで共通に使用するコードリスト等をまとめた共通パッケージより構成される。国土数値情報応用スキーマに含まれる地物およびメッシュは、指定地域や沿岸域等のカテゴリにおいて定義される。



4.1.2 指定地域パッケージ

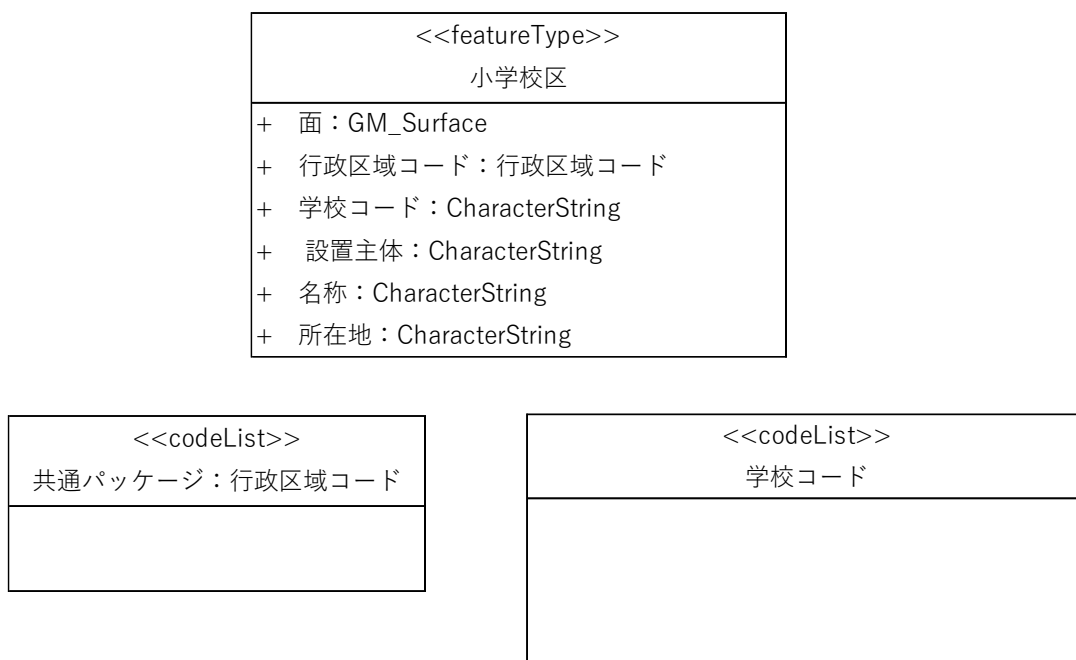
このパッケージは、指定地域に関するパッケージをまとめたものである。

指定地域パッケージ			
A02: 指定地域メッシュ	A03: 三大都市圏計画区域	A05: 森林・国公有地メッシュ	A07: リゾート法指定地域
A09: 都市地域	A10: 自然公園地域	A11: 自然保全地域	A12: 農業地域
A13: 森林地域	A15: 鳥獣保護区	A16: 人口集中地区	A17: 過疎地域
A18: 半島振興対策実施地域	A19: 離島振興対策実施地域	A20: 奄美群島	A21: 小笠原諸島
A22: 豪雪地帯	A23: 特殊土壌地帯	A24: 振興山村	A25: 特定農山村地域
A26: 土砂災害危険箇所	A27: 小学校区	A28: 世界自然遺産	A29: 用途地域
A30a5: 土砂災害・雪崩メッシュ	A30b: 竜巻等の突風	A31: 洪水浸水想定区域	A32: 中学校区
A33: 土砂災害警戒区域	A34: 世界文化遺産	A35a: 景観計画区域	A35b: 景観地区・準景観地区
A35c: 景観重要建造物・樹木	A37: 半島循環道路	A38: 医療圏	A39: 密集市街地
A40: 津波浸水想定	A42: 歴史的風土保存区域	A43: 伝統的建造物群保存地区	A45: 国有林野
A46: 地すべり防止区域	A47: 急傾斜地崩壊危険区域	A48: 災害危険区域	A49: 高潮浸水想定区域

4.1.3 小学校区パッケージ

このパッケージは、小学校区に関する内容をまとめたものである。

4.1.3.1 応用スキーマクラス図



4.1.3.2 応用スキーマ文書

小学校区

当該小学校に通学する児童・生徒の居住地について、市区町村の教育委員会等が指定する小学校別の一定の通学範囲となる「通学区域」。

また、全国各地においては「学校区」「学区」「校区」「校下」も同義語にあたる。

なお、通学区域が広範囲等により範囲が限定しにくい「私立小学校」「特別支援学校」

「国立大学の附属小学校」等は、当該小学校区の対象に含まない。

原典資料：全国の市区町村教育委員会から収集した「小学校区資料」

上位クラス：なし

抽象／具象区分：抽象

属性

範囲：GM_Surface

当該通学区域の範囲。

■ 取得基準

面で取得する。

図形の起終点は一致させる。

行政区域コード：行政コード

当該小学校が属する行政コード。

当該小学校が所在する市区町村を示すコードで、都道府県コードと市区町村コードからなる、行政区を特定するための5桁のコード。JIS規格（JIS X 0401, JIS X 0402）に準拠する。小学校区が複数の市区町村にまたがる場合には、小学校区の所在地として行政コードを記載する。

■ 定義域

「行政コード」の取りうる値。

■ 定義域

共通パッケージを参照

例) 北海道札幌市の場合 01100

5byte 以内

■ 取得基準

令和元年 5 月 1 日更新公表値を使用する。

設置主体 : `CharacterString`

■ 定義域

当該小学校の設置主体（例：〇〇市立）

254byte 以内

学校コード : 学校コード

■ 定義域

令和 3 年度作成国土数値情報（学校）データの学校コード
学校コードについて、全国の学校に対し、当該学校に固有の「学校コード」
を文部科学省において設定した。

15byte 以内

学校コード				
A123310000009				
A1	23	3	1000000	9
学校種	都道府県番号	設置区分	学校番号	検査数字

学校コードは、当該学校の種別（「学校種」）、所在する都道府県の別（「都道府県番号」）、設置者の別（「設置区分」）、これら三つの要素により区分された中において重複なく付番される「学校番号」、及びこれらにより構成される数字等の入力誤りを防止するための「検査数字」の五つの要素により構成する。

名称 : `CharacterString`

当該小学校の名称（例：□□小学校）

■ 定義域

254byte 以内

所在地 : `CharacterString`

小学校の設置所在地の情報（例：〇〇市□□町 1-1-1）

■ 定義域

254byte 以内

4.1.4 共通パッケージ

このパッケージは、国土数値情報応用スキーマで共通に使用するコードリスト等をまとめたものである。

コードリスト等については、本製品仕様書「1.7 参考資料」の参照先を参照。

4.2 空間スキーマプロファイル

国土数値情報の空間スキーマプロファイルは「地理情報標準プロファイル (JPGIS) 2014 版 空間スキーマ」を採用する。

4.3 時間スキーマプロファイル

国土数値情報の時間スキーマプロファイルは「地理情報標準プロファイル (JPGIS) 2014 版 時間スキーマ」を採用する。

5 参照系

5.1 座標参照系

参照系識別子 : JGD2011/(B,L) とする。この表記は、JIS X7115 附属書 2 に規定された表記方法に準拠しており、JGD2011 は日本測地系 2011 B L は測地座標系による緯度、経度であることを示している。

5.2 時間参照系

時間系識別子 : GC/JST とする。この表記は、JIS X7115 附属書 1 に規定された表記方法に準拠しており、GC はグレゴリオ暦 (西暦)、JST は日本標準時であることを示している。

6 データ品質

6.1 品質要求及び評価手順

データ品質要素・副要素	完全性・過剰
データ品質適用範囲	データ集合
データ品質評価尺度	<p>データ集合内に、原典資料と対応関係がとれない小学校区データが存在すれば、それを過剰なデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対応関係がとれない地物がデータ集合内に存在する場合。 ・原典資料及び集合データ内に同一の地物インスタンスが重複して存在する場合。本体を除き、重複している余分なデータの個数をすべてエラーとして数える。 <p>誤率 (%) = (過剰なデータ数 / 参照データに含まれるデータの総数) × 100</p>
データ品質評価手法	<p>全数検査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ品質評価尺度に基づき、誤率を計算する。 ・計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 誤率=0% であれば“合格” ➤ 誤率>0% であれば“不合格”
適合品質水準	過剰なデータの割合：0%

データ品質要素・副要素	完全性・漏れ
データ品質適用範囲	データ集合
データ品質評価尺度	<p>データ集合内に原典資料と対応する小学校区データが存在しない場合、それをデータの漏れとカウントし、データ集合から漏れているデータ（エラー）の割合（誤率）を計算する。</p> <p>原典資料と対応すべき地物インスタンスが、データ集合内に存在しない場合。</p> <p>誤率 (%) = (漏れのデータ数 / 参照データに含まれるデータの総数) × 100</p>
データ品質評価手法	<p>原典資料との比較による全数検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地物型の識別ができるように、適用範囲に含まれるデータ（地物インスタンス）を表示又は出力する。 ・計算した誤率と適合品質水準とを比較し、以下の判定式に基づき合否を判定する。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 誤率=0% であれば“合格” ➤ 誤率>0% であれば“不合格”
適合品質水準	データの漏れの割合：0%

データ品質要素・副要素	論理一貫性・書式一貫性
データ品質適用範囲	データ集合
データ品質評価尺度	データ集合の書式が、整形形式となっていない箇所（XML 文書の構文として正しくない箇所）の割合を計算する。
データ品質評価手法	XML パーサによる全数検査
適合品質水準	誤率 0%

データ品質要素・副要素	論理一貫性・概念一貫性
データ品質適用範囲	データ集合
データ品質評価尺度	符号化仕様が規定する XML スキーマに対する、データ集合に存在する矛盾の割合を計算する。
データ品質評価手法	XML バリデータによる全数検査
適合品質水準	誤率 0%

データ品質要素・副要素	論理一貫性・定義域一貫性
データ品質適用範囲	データ集合
データ品質評価尺度	地物属性の市区町村コード、の定義域の範囲外にある値を持つ地物の割合を計算する。 誤率 (%) = (定義域の範囲外にある値を持つ地物属性の数 / 地物属性の総数) * 100
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査
適合品質水準	誤率 0%

データ品質要素・副要素	論理一貫性・位相一貫性
データ品質適用範囲	データ集合
データ品質評価尺度	閉じられていない面があればエラーとしてカウントする。 誤率 (%) = (エラー数 / 各データ集合総数) * 100
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査
適合品質水準	誤率 0%

データ品質要素・副要素	位置正確度・絶対正確度
データ品質適用範囲	データ集合
データ品質評価尺度	地物と数値地図 25000（地図画像）を重ねてディスプレイ上または出力図に表示し、原典資料と比較し、位置のズレの最大値を測定する。
データ品質評価手法	全数検査
適合品質水準	実寸 25m 以内

データ品質要素・副要素	主題正確度・非定量的主題属性の正しさ
データ品質適用範囲	データ集合
データ品質評価尺度	地物属性と原典資料に記載されている内容とが一致しない地物の割合を算出する。 誤率 (%) = (内容が一致しない地物属性の数 / 地物属性の総数) * 100
データ品質評価手法	全数検査
適合品質水準	誤率 0%

7 データ製品配布

7.1 配布書式情報

■ 書式名称

(JPGIS) 2014 版 附属書 12 (規定) 地理マーク付け言語 (GML)

■ 符合化仕様

国土数値情報応用スキーマの XML Schema は、JPGIS 第 3.0 版 附属書 12 の符号化規則に従う。また、国土数値情報応用スキーマが参照する基本データ型スキーマ、空間スキーマ、時間スキーマ等の標準スキーマの XML Schema は、次の URL に掲載されている XML Schema を使用する。

<http://schemas.opengis.net/gml/3.2.1/gml.xsd>

国土数値情報 (小学校区) 応用スキーマの XML Schema で使用する名前空間および名前空間接頭辞は次のとおりとし、XMLSchema については付属資料を参照のこと。

名前空間 : <https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/jpgis/xsd/KsjAppSchema.xsd>

名前空間接頭辞 : ksj

■ 文字集合

UTF-8

■ 言語

日本語

7.2 配布媒体情報

■ 単位

都道府県別

■ 媒体名

下記サイトよりダウンロード。下記サイトでは、国土数値情報を無償で一般公開している。

国土数値情報ダウンロードサービス (JPGIS 準拠データ)

URL <https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>

8 メタデータ

本製品仕様書のメタデータは、**JMP2.0**を採用する。

国土数值情報（小学校区）製品仕様書 第 3.0 版

付属資料

付属資料-1 符号化仕様作成のためのタグ一覧

	クラス	属性・関連役割	型	タグ名	英語名(属性・関連役割のみ)
政策区域					
行政地域					
小学校区				ElementarySchoolArea	elementary school area
	範囲		GM_Surface	bounds	bounds
	行政区域コード		行政コード	administrativeAreaCode	administrative area code
	設置主体		CharacterString	establishmentPersonnel	establishment personnel
	学校コード		学校コード	SchoolCode	school code
	名称		CharacterString	name	name
	所在地		CharacterString	address	address

付属资料-2 符号化仕様

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<xsd:schema xmlns:ksj="https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/jpgis/xsd/KsjAppSchema.xsd"
xmlns:gml="http://schemas.opengis.net/gml/3.2.1/"
xmlns:sch="http://www.ascc.net/xml/schematron" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-
instance" targetNamespace="https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/schemas/ksj-app KsjAppSchema-A27-v3_0.xsd"
elementFormDefault="qualified" version="3.0">
  <xsd:annotation>
    <xsd:documentation>小学校区</xsd:documentation>
  </xsd:annotation>
  <!-- 外部参照 -->
  <xsd:import namespace="http://schemas.opengis.net/gml/3.2.1"
schemaLocation="http://standards.iso.org/ittf/PubliclyAvailableStandards/ISO_19136_Schemas/gml.xsd"/
>
  <xsd:include schemaLocation="Ksj_Common.xsd"/>
  <!-- 基底要素 -->
  <xsd:element name="Dataset">
    <xsd:complexType>
      <xsd:complexContent>
        <xsd:extension base="gml:AbstractFeatureType">
          <xsd:choice minOccurs="0" maxOccurs="unbounded">
            <xsd:element ref="gml:AbstractGML"/>
            <xsd:element ref="gml:CompositeValue"/>
          </xsd:choice>
        </xsd:extension>
      </xsd:complexContent>
    </xsd:complexType>
  </xsd:element>
  <!-- 要素定義 -->
  <xsd:element name="ElementarySchoolArea" type="ksj:ElementarySchoolAreaType"
abstract="true" substitutionGroup="gml:AbstractFeature"/>
  <xsd:complexType name="ElementarySchoolAreaType" abstract="true">
    <xsd:annotation>
      <xsd:documentation>小学校区</xsd:documentation>
    </xsd:annotation>
    <xsd:complexContent>
```

```

<xsd:extension base="gml:AbstractFeatureType">
  <xsd:sequence>
    <xsd:element name="administrativeAreaCode" type="gml:CodeType">
      <xsd:annotation>
        <xsd:documentation>行政区域コード</xsd:documentation>
        <xsd:appinfo>
          <gml:defaultCodeSpace>AdministrativeAreaCode.xml</gml:defaultCodeSpace>
        </xsd:appinfo>
      </xsd:annotation>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="establishmentPersonnel" type="xsd:string">
      <xsd:annotation>
        <xsd:documentation>設置主体</xsd:documentation>
      </xsd:annotation>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="SchoolCode" type="xsd:string">
      <xsd:annotation>
        <xsd:documentation>学校コード</xsd:documentation>
      </xsd:annotation>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="name" type="xsd:string">
      <xsd:annotation>
        <xsd:documentation>名称</xsd:documentation>
      </xsd:annotation>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="address" type="xsd:string">
      <xsd:annotation>
        <xsd:documentation>所在地</xsd:documentation>
      </xsd:annotation>
    </xsd:element>
  </xsd:sequence>
</xsd:extension>
</xsd:complexContent>
</xsd:complexType>

```

```
<xsd:complexType name="ElementarySchoolAreaPropertyType">
  <xsd:sequence minOccurs="0">
    <xsd:element ref="ksj:ElementarySchoolArea"/>
  </xsd:sequence>
  <xsd:attributeGroup ref="gml:AssociationAttributeGroup"/>
  <xsd:attributeGroup ref="gml:OwnershipAttributeGroup"/>
</xsd:complexType>
<xsd:complexType name="ElementarySchoolAreaMemberType">
  <xsd:complexContent>
    <xsd:extension base="gml:AbstractMemberType">
      <xsd:sequence minOccurs="0">
        <xsd:element ref="ksj:ElementarySchoolArea"/>
      </xsd:sequence>
      <xsd:attributeGroup ref="gml:AssociationAttributeGroup"/>
    </xsd:extension>
  </xsd:complexContent>
</xsd:complexType>
</xsd:schema>
```